

株式会社オン代表取締役 小野由紀子さん

植物商材で生活を豊かにする提案を続けたことが
コロナ禍にも揺らがずSDGsにつながる会社に

なでしこ力



小野由紀子さん

国連が掲げたSDGs（持続可能な開発目標）が注目されるずっと前から、環境に優しい植物商材製品を中心に業務を行ってきた「オン」（名古屋市名東区）。長年扱ってきた商材が、コロナ禍でより重要度を増す一方、人々を癒して健康を守るものになっている。

「オン」は、㈱豊造園のグループ会社として、自然に関わる商材や技術力を利用した商材を扱ってきた。平成2年、緑地計画コンサルタントからスタート。環境資材、開発販売のほかサウナ用薬草や花風呂の販売、電解水サーバー、水素水サーバーの販売まで幅広いが、すべて「環境に優しい商品を」と厳選してきた。

「オン」が扱うサウナ用薬草は中国から輸入している。「スーパー銭湯で何か変わったことをしたい」とスーパー銭湯設計者から相談され偶然、中国から日本に來られた漢方の名医と知り合ったことで「皮膚からの吸収によりよい効果が得られる薬草でのサウナ」を提案。好評となり全国のスーパー銭湯に広がっていった。やがて花風呂（風呂に花びらを浮かべるもの）のバラと洋ランの花びらも商材として取り扱い、混合も可能で近年特に好評に。

サウナで入浴客に温風を送るビフィタと呼ばれる白樺の木は、北海道から仕入れている。同社ではこれまでのネットワークを駆使し、特殊な植物商材を調達してきた。今でも景気やコロナの影響をほとんど左右されず順調に販売が続

いている。

加えて、電解水や水素水を生成する機械も扱っている。水素水サーバーは、美容・健康に良いと一大ブームとなった水素水を作るもので、温浴施設、フィットネスジム、飲食店などの需要が高い。

電解水は水と塩と電気だけで作るものだが、洗浄や除菌に力を発揮する。安全性が高く、酸性水もアルカリ性水も作り出すことが出来るサーバーは飲食店、食品販売店、ホテル、介護施設などから注目されている。コロナ禍になってからはより注目されるようになった。同社は農業分野への販売もしており、観光農園のように人が出入りするところからの問い合わせも多い。

前社長は、長崎のテーマパークなどの設計にも携わっていたが、奥様の看病のために当時勤めていた会社を退職した。その後、大学の同級生で小野さんの実父である小野天下さん（創業48年の豊造園社長）が声をかけ、平成2年に名古屋で豊造園のグループ会社として事務所を構えた。同14年には中国の大規模な河川事業